

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200335		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム向町		
所在地	岩手県宮古市向町2番34号 坂下賃貸ビル3F		
自己評価作成日	令和5年11月16日	評価結果市町村受理日	令和6年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が居心地よくゆったりと過ごせるように、それぞれのペースに合わせてのケアを職員は心掛けている。毎日を楽しそうに過ごすようにレクリエーション他、行事を工夫し楽しんでいただけるよう取り組んでいる。広報誌他、三ヶ月ごとに、ご家族にお便りを送り生活の様子を報告している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、医療機関の受診や買い物も徒歩で可能な市街地にあり、7階建ての3、4階を事業所としている。また、宮古市の水害被害時の高層避難所に指定され、災害用品の保管や避難者の受け入れ体制も整っている。地域住民との交流は、コロナ禍ではDVDを使用した非対面形式で行われていたが、今年は地元の小学生が来訪し、合唱での交流会を再開するなど、コロナ禍前の交流に戻りつつある。運営に当たっては、事業所の理念を職員間で共有し、利用者の残された能力を活かして職員と協力し買い物や食事の準備、後片付けを行い、より家庭的な雰囲気の中で介護サービスを提供できるよう工夫されている。年2回の広報誌発行のほか、3ヵ月毎に「おたより」を作成し、家族に近況を伝え利用者の状況を理解していただいている。職員の希望や管理者からの働きかけに応じ、資格取得に向けた補助もあり、介護支援サービスの向上を意識した事業を継続している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の中心に理念を掲示し、職員が同じ目標に向かい支援をするよう心掛けている。家庭的な雰囲気や大いに支援している。	開設時当初に設定した理念をホール中央に掲げ、カンファレンス時、職員全員で「理念に忠実」に業務が出来ているかを毎回確認しながら、基本に戻り振り返りながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理容等、近所のお店を利用する事で交流を持っている。他、地域の小学生との交流会も利用者様の楽しみになっている。	コロナ禍でも地元小学校とはDVDを活用した非対面での交流を継続していたが、今年は10月に地元小学生20人が来所して対面での合唱交流会を再開し、入居者全員が参加し楽しむことができた。また利用者は、近所のスーパーに買い物に出かけたり、馴染みの床屋に行ったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談などあった場合は随時対応し理解を深めていただけるよう務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の春まで書面開催となっていたが現在は通常通り地域の方を招き事業活動を報告し意見交換をしている。	今年5月から参集での会議を再開した。委員は地域の有識者、町内会長、地元小学校地域コーディネーター、民生委員、市の担当者であるが、出席者が固定の傾向がある。会議資料を事前に手渡しのうえ、運営状況の報告、今後の計画、お便りの紹介、意見交換を議事としているほか、目標達成計画の進捗状況も報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緊急時他、相談事は日頃から連絡を取り協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市からの情報はメールや文書で提供され、災害情報は防災ラジオから取得している。利用者に欠員が生じた際には、地域包括支援センター等と情報を共有している。市の実地指導の際、運営規定にハラスメントに関する事項を取り入れるよう指導があり、追加している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度、身体拘束適正化の会議を開催し、ケアを振り返り話し合っている。身体拘束に繋がる恐れについても確認し職員の共通認識の向上に取り組んでいる。	カンファレンスの際に職員一人一人がチェック表に記載することで、自分自身の対応を振り返ってもらう機会としている。スピーチロックについてもその時の状況を確認しながら話すスピードや話し方で受ける印象が変わることを職員全員で話し合い取り組んでいる。玄関は防犯目的で夜間は施錠し、それ以外は自動ドアとインターホンで対応している。歩行不安定時の転倒防止としてベッド下に赤外線センサーを配置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化の会議の際、言葉づかいや態度など振り返り、虐待に当たらないかを検討し防止に努めている。新しい職員には研修で意識の向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する方はいないが外部での研修に参加し学ぶ機会をつくっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居と退去の条件、看取りに関する指針など契約書の内容を十分に説明し、疑問点などないか確認しながら契約内容を理解と納得していただいたうえで契約の締結をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見、要望は日頃の会話から聞き取り可能な限り対応している。ご家族の来所時他、3か月毎にお便りを送り利用者様の近況を伝え意見、要望等は聞き入れている。	家族には面会で来所した際、意見等を伺うこととしている。事業所からは、年2回の広報誌のほか、お便りを3か月毎に送付しており、家族からは季節ごとの心配(寒くなると〇〇を着せてほしい)や散髪をお願いしたいとの要望があり、その都度一人一人に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りで報告、連絡、介護方法の工夫等、意見の交換ができています。管理者は職員の意見や提案の把握に努めている。	毎朝の申し送りで出された意見等を具体的に聞き取り職員間での意見交換をしながら、業務に反映させている。主な意見は、利用者への対応方法で入浴拒否者や帰宅願望者への対応について提案され、工夫することで改善され職員全員で共有している。	

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休他、要望は可能な範囲で応えている。資格取得の支援があり各職員の実績に応じた支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技術に応じた研修の参加、資格取得に向けてのバックアップをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は、あまり出来ていないが出来る範囲での研修の参加に努めている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報をご家族、サービス関係者に得ている。ご本人に直接、不安な点と要望を聞き安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の話し合いでご家族の困っていること、要望を理解し安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を把握し必要なサービスを提供できるよう考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の持っている力を把握し、生活に寄り添い関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院の付き添い等、できる範囲で協力していただいている。面会時他、電話、お便りで生活の様子をご家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会他、馴染みのお店など職員付き添いのできる範囲で関わりを持てるよう努めている。	入居前の情報はケアマネから把握し、入居時には利用者や家族から現在までの関係者や馴染みのところを把握している。利用者の知人や親戚が立ち寄りたり、馴染みの理髪店での散髪したり今までのご縁が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味、嗜好、性格に合わせ利用者間の関係に配慮し職員が間に入り楽しめるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に相談等はないが、ご家族にお会いした際は挨拶と近況をお伺いしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活から会話、表情、思いを把握し一人一人にあった支援ができるよう努めている。	入居時、利用者や家族の思いや今後の意向を伺うとともに、おやつの時間など事業所でのゆっくりできる時間の中で、会話や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。帰宅願望の強い利用者には家族の協力をいただきながら対応することもあり、対応方法を職員で工夫、共有している。	地域密着型の特徴である少人数の馴染みの関係を活かして、職員全員が「一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向」を家族との接点を通じ、今まで以上に把握に努めていくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族よりこれまでの生活歴等の聞き取り、入居前のサービス事業所からの情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックとその日の過ごし方を申し送りして現状の把握に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご本人、ご家族に意向、要望を確認し必要な支援を考え介護計画を作成し、説明と意見を伺っている。定期的にカンファレンスを行い状態の変化による見直しを図っている。	計画は、短期3ヵ月、長期6ヵ月毎に見直している。職員によるカンファレンスとアセスメントを経て、管理者とケアマネによるモニタリングを行って原案を作成している。その後家族に説明して意見を伺い、医師の指示や職員である看護師の助言も計画に反映させている。モニタリングは定期的に行っており、要介護度や身体・精神機能の変化などがあった場合には、現状に即した介護計画への見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と申し送り、日誌に変化等の注意事項を記入し情報共有している。カンファレンスで検討し支援計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望、状況に応じ可能な限り柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、散髪、地域の小学校との交流会など暮らしを楽しめるようできる範囲で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医を受診している。定期受診は、ご家族対応を基本的としているが職員の同行、対応する場合もある。	入居者全員が入居前のかかりつけ医を継続利用している。家族付き添いでの通院は3名、職員対応での通院は6名となっている。職員が付き添う場合には、バイタル記録を持参し、日常生活の様子を報告しており、受診後は通院記録に記述している。家族には変化があった場合に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態について共有している。体調の変化があった時他、急変時は看護師に相談し指示を得ている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は医療機関に必要な情報提供を行っている。経過をみながら病院関係者とご家族と退院後の相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について事業所でできることを説明し理解を得ている。対応できる範囲でご家族の希望に応じている。	重度化や終末期の支援の在り方については、入居時に説明し同意を得ている。身体機能の低下に伴い、その状態に合わせた福祉用具の使用や食事内容の変更など、柔軟に支援している。体調の変化があった場合は、その都度、家族と話し合っている。看取りの経験はないが終末期におけるケアについては、職員の看護師から指導を得て対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応はいつでも確認できる場所に掲示している。マニュアルは職員間で共有し冷静に行動できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練と年1回の水害時の避難訓練を実地している。水害時の市指定避難場所となっており地域との協力体制を築いている。	年2回の火災避難訓練と年1回の水害時の避難訓練を実施している。ハザードマップでは津波浸水地区に指定され、建物は市の避難場所にもなっている。3月11日の津波避難訓練では市全域で非常放送があり、地域住民の避難場所入り口を開錠し、入居者は人員確認のうえで3階に留まり、勤務外の職員の安否確認を行っている。台風発生時に当法人内の事業所の避難を受け入れた経験もある。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が安心して過ごせるよう話し方など気配りしている。排泄、入浴時はプライバシーに配慮し対応している。	職員は使用する言葉の内容や語調などで、利用者の誇りやプライバシーを損なわないように注意している。その日の体調や気分を考慮し、利用者に合わせて丁寧な言葉を基本としながら、地元の言葉を交えてコミュニケーションを図っている。	
----	------	--	---	---	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望は可能な範囲で対応している。話すことが苦手な利用者様には自己決定しやすい声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様その日の状態、それぞれ生活のペースで生活できるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご本人が自由に選んでいる。できない方は職員がお手伝いしている。散髪の希望に合わせて近所の美容室に来ていただきカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べたいものなど希望も聞きながら、昼食は出来るだけ一緒に食事準備をするように心掛けている。食後も食器拭きなど手伝っていただいている。	朝夕のおかずは冷凍食品を利用し、朝夕のご飯とみそ汁は毎日事業所で手作りしている。昼食は入居者の希望を聞きながら、カレーライスや餃子、ピーマンの肉詰めなどを利用者と一緒に作っている。新聞の折り込みチラシを見て、献立が提案されることもある。一人一人の得意分野を活かし、食材を刻んだり、食器を拭いたり、片づけをお願いして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はチェック表に記入し把握している。気温に合わせて水分摂取量に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合わせ口腔ケアを行い口腔内の清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄のパターンを把握し、一人一人に合わせて出来る限り自立した排泄を検討し支援している。	排泄時は他の利用者から見えないよう、職員が常に配慮を欠かしていない。排泄チェック表を活用しながら、一人一人の習慣やパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。掴まり立ちができ、座位保持が可能な車いす利用の利用者もいる。日中は利用者全員トイレで排泄できるよう職員で支援し可能となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じ下剤を使用し対応している。毎日の軽体操他、日頃からヨーグルトなど提供し便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を入れるなど工夫して入浴を楽しめるよう支援している。利用者の希望に合わせて曜日などは臨機応変に支援している。	入浴は毎日可能であり、週2回は入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる方もおり、温泉の入浴剤を使用したところ好評となり、別の入居者からも「今日はこの温泉？」と聞いてくるなど、入浴は職員との楽しいコミュニケーションの機会ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり個々のペースで過ごされている。昼夜、室温と湿度に気を配り快適に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は利用者様ごとにファイルに綴じ確認できるようにしている。薬の変更等、通院録に記録し職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事を把握し、家事手伝いなどを通して役割ややりがいをもっていただけるよう支援している。毎日、日替わりのレク活動で歌など楽しまれ気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し散髪他、商店街の催し物があるとき出かけるなど外出支援をしている。	天気が良い日は事業所向かいの米屋や近所のスーパーの買い出しに同行する利用者もおり、一緒に買い物を楽しんでいる。商店街のフリーマーケットでの買い物や受診後のドライブなど、入居者の希望を伺いながら対応し喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理されている方はなく、ご家族より預り金を施設で管理している。その中から必要なもの、外出時の要望に合わせて職員が購入としている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者様より要望があった時は、その都度対応している。ご家族からの手紙は本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに装飾他、花を飾り今の子節の話題にして季節感を感じていただいている。日差しのまぶしさ、室温、湿度等に配慮し居心地よく過ごせるよう工夫している。	建物の3階にはホール、台所、浴室、トイレ、居室が3部屋あり、4階にはトイレと居室が6部屋ある。ホールはエアコン、床暖房、空気清浄機、加湿器で、室温と湿度が適正に管理されている。ソファ、テーブル、テレビが置かれ、日中は全員集まりくつろいでいる。利用者の書道などの作品や花が飾られ、明るい雰囲気が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとソファが設置されており、その時々で好きな場所を選べるようにしている。日中はテレビを見てる方、会話をされている方など思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物、家族の写真など居心地よく安心して暮らせるよう持ち込みたいものを持ってきていただいている。	居室には床暖房、タンス、ベッド、小物入れ、鏡、クローゼット、ナースコール、窓用エアコン(夏用)が設置されている。自宅からテレビ、家族写真、時計やカレンダーを持ち込んで居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の安全、安心を心掛け、状態に合わせて制限のない暮らしが出来るよう努めている。		